

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1146 2015年9月号

森林作業道現地検討会開催

9月8日、香川県東かがわ市の中尾国有林において森林技術総合研修所林業機械化センターの教務指導官を講師として「森林作業道作設技術の現地検討会」を開催しました。【詳細は2頁】





「森林作業道現地検討会」開催

〈香川森林管理事務所〉

九月八日、東かがわ市の 官と山下係員を講師に迎え

中尾国有林において森林 「森林作業道作設技術の現

技術総合研修所林業機械化 地検討会」を開催しました。

センターの加利屋教務指導 この検討会は、作業道



現地検討会の様子

まった県職員や各森林組合 における丸太を使ったアン

の他、隣の徳島県からも事 カー補強のやり方や効果的

業体や水源林整備事務所職 な洗い越しの方法について

員等、総勢七〇名以上の技 学びました。なかでも表土

術者が参加しました。 を使ったブロック積工は、

講師からは、壊れにくい 表土の取り方や置き方、転

作業道の作設に際しては、 圧の方法等については、参

「線形を決めるときには、 加者に機械を操作させるな

まず残す木を決める」、「機 ど、わかりやすい説明に参

械の進入は、センターの位 加者も大いに納得した様

置からではなく山側から斜 子で、「大変参考になった。

めに入れる方が効率的」、 このような機会を是非また

「道は、作業するための道 設けてほしい。」等の意見

と移動（登坂路）に使う道 が数多く寄せられました。

とを分けて考える」等、多 最後に田口森林整備部長

くの具体的なアドバイスを から、「これからの森林・

いただきました。実際に体 林業を盛り上げていくのは

験しながら路肩の弱い箇所 素材生産業者です。最初か



九月七日、高知市において、四国各県の林務担当部局、(研)森林総合研究所

四国支所、同森林整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の

開会にあたり協議会会長

の大山森林管理局長から「現在、森林・林業については、新たな木材需要の創

出や国産材の安定供給体制の確保等により成長産業化に向け取り組むこと、更に、

地域を支える農林水産業の成長産業化により安定した雇用を創出することが求められています。本日は各機

関の取組や研究成果を紹介いたします。本日は各機

関から各種研究事例や国有



協議会会長大山森林管理局長挨拶

いただき、活発な意見交換ができれば幸いです。」と挨拶がありました。

次に開催県である高知県

の大野林業振興・環境部長と林野庁計画課城企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

ました。

続いて、「四国山の日賞」

選定団体の報告、林野庁から森林・林業・木材産業を

巡る最近の動きについての説明が行われました。その

後、各県が取り組んでいる「担い手確保・育成への取

組」や「木質バイオマス利

用の取組」等が紹介され、

また、森林総合研究所各機

関から各種研究事例や国有

林との連携の状況について説明がありました。

これらの説明等に関して

見交換が行われました。



「四国山の日賞」は、四

国四県と当森林管理局との

間で締結した「四国の森づ

くりに関する共同宣言」(平成一六年)の趣旨に沿って、

四国の森林等をフィールド

として四国の森づくり活動

「森林整備の推進」、「木材

の利用推進」及び「森林環

境教育活動の推進」に積極

的に取り組んでいる団体を

選定し表彰するものです。

今年度の募集に対して、

四国四県から一〇団体の応募があり、八月二七日、林

業関係者、環境教育関係者

やマスコミ関係者からなる

「四国山の日賞」選考委員

会において、厳正かつ公正

な審査を行い、五団体(森

林整備分野二団体、木材利

用分野二団体、森林環境教

育分野一団体)を選出し、九月七日の四国林政連絡協議会に報告し決定されました。

なお、表彰式は一月に香川県で行なわれます。「四国山の日」のイベントにおいて行ないます。

受賞団体は、



「四国山の日賞」選考委員会

多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進部門

●三原村森林組合【高知県】

●高知里山を愛する会(西

条市丹原町高知地区)【愛

媛県】

木材の利用推進部門

●株式会社山城もくもく

【徳島県】

●高知県立高知工業高等学校

校

【高知県】

森林環境教育活動の推進部

門

●さぬき市林業研究会【香

川県】

各受賞団体の活動状況、

選定理由については、四国

森林管理局ホームページ

「平成二七年度四国山の日

賞」決定をご覧下さい。



八月二〇日、公募による一六組、三八名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、当局の大会議室において実施しました。

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協

議会との共催で、例年、夏休み終盤に小学生とその保護者を対象に開催しています。

まず、山に親しんでもらいたいという思いから、山で観察できる木や生き物の写真を見てもらいました。それからクイズ形式で、「木

完成作品



からできたものクイズ」として、見た目でもわかるものから、紙など姿を変えて製品になったものや、スポンジなど全く違う製品と合わせて問題にしました。やはり、姿を変えた製品は難しかったようですが、身近な物の多くが木からできて

積木教室



いるということに、参加者は驚いていました。続いて、森林整備等で生じた広葉樹の枝などを使って、『汽車とトラック』のカベ掛けを作製しました。

開始直後の子供たちは、色使いを工夫して、ゆっく

いとと思います。その後は、オイスカスタッフと海外研修生達との積木教室です。ヒノキの間伐材で作られた積木に温もりを感じながら、保護者も交えて、上へ上へと高く積み上げたり横に並べ

たり、また、途中で崩れて残念がったり、子供たちの色々な表情を見ることができました。途中、オイスカスタッフから、どのように

して、積木が作られたかなどの説明を受けたり、森林や木についていろいろ勉強になったことと思います。



九月九日、高知城において、樹木教室を実施しました。これは、高知大学教育学部附属小学校から、高知城の樹木について、「特に珍木・奇木について、自然の不思議、力強さについて教えて欲しい。」という依頼

を受けて行ったものです。九月二日に事前学習ということで、森林技術・支援センターの協力により、スギやヒノキなどの針葉樹とアラカシやサカキなどの広葉樹を学校に持参して、葉の種類やつきかたの違いなどを学習しました。子ども



事前学習 (直接、葉っぱに触れて、匂いも嗅いでみよう)



事前学習 (針葉樹と広葉樹について)



高知城の樹木観察

達は普段じっくりと葉に触れたことがないようで、手触りの違いを感じたり、匂いを嗅いだりして、「ナギはトマトの匂いがする。」と盛り上がっていました。最後に、針葉樹と広葉樹とに分けてもらいましたが、やはり(?)ナギは広葉樹、最後に、針葉樹と広葉樹と行…高知緑と水の会)を資料にその中の八本をメインに高知城を六班に分かれて一周しました。さすがに、前週の事前学習が功を奏し、木を見て、針葉樹・広葉樹を判別していました。子ども達は、

ヒイラギは針葉樹(針のよ) 同じ種類の木同士ならくつうにチクチクするから)と ついて一本の木のようになら、土などの養分を奪い合いながらも共存しあっていることが不思議だったよ

予想どおりの間違いがあり 成長することや、違う木

見た古木達と話そう!“(発) うです。

最後に、「針葉樹と広葉樹があることを知った。これからは、どちらに分類されるのか考えながら木を眺めてみたい。」などの感想をもらい、これを機に、樹木に少しでも関心を持ってもらえればと思いました。

各地のたより



教室を開催しました。

八月九日、愛媛県鬼北町

立近永小学校で、六年生二四名を対象に、親子木工



作品作製

最初に、怪我をしないよう、模範を見せながら、道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、サクラ、ミズメ、ヒメシヤラなどの木の枝を使って、親子で自由製作に挑戦しました。

短い時間でしたが、ノコギリやクラフトナイフ、剪定バサミなどを使い、小枝等を加工して、慣れない手工具に悪戦苦闘しながらも、先生や当センター職員の手も借りながら、自分達で創意工夫をして、クマや



シカ等の置物やクマのストラップなどのオリジナル作品を完成させました。

夏休み中に、親子で一緒に、木を使っていろんな工作ができました。これを引きつけにしてくださる木に親しんだり利用してもらいたいと思います。



完成した作品



九月八日及び一〇日に、

徳島市立上八万小学校において、三年生児童五六名、一年生児童四四名を対象とした森林教室を実施しました。

上八万小学校は徳島市内で唯一学校林を持っており、森林環境教育にも積極的に取り組んでいます。この取り組みは、当小学校二学期の恒例行事となっており、今年是学校の要望に沿って、三年生が「森林の

森林教室（児童からの質問）



役割と昆虫」、一年生が「森や木の役割と動物」をテーマとしました。

まず、国有林の仕事について説明した後に、森林による地球温暖化防止機能について話を行い、三年生には森林に生息する昆虫の幼虫から成虫までの変化や、昆虫を例に、外来生物によ

り在来生物に危機が生じていること。一年生には県内の森林に生息する動物について学んでもらいました。その後、木工製作として、三年生は「昆虫」、一年生は「動物」のマスコット作りを行いました。児童たちには、様々な大きさの板や輪切りにした枝等を土台に木の実や小枝、端材等自由昆虫・動物を作ってもらいました。出来上がった作品は実にみごとで、見本がない「てんとう虫」や「とんぼ」、「こうもり」等オリジナルの作品を作った児童もいました。児童達の発想

でこちらが気付かされることもありました。完成後に「楽しかった!」との感想をもらい、森林教室は楽しい雰囲気の中、終了しました。

最近、自分で山に行つて昆虫を捕まえたり、木材に触れる事も少なくなっているようですが、児童は昆虫は勿論のこと、木材にもとても興味があるようで、熱心に話を聞き、木工製作を行っていました。

これからも学校や地域の要望に応えられるように森林環境教育を実施していきたいと考えています。